

1 学年のみんなへのメッセージ

英語科 浜中 勇一

〇 まずはじめに

今年度は1学年の担任として、ほとんど1年生の全クラスの英語の授業に出ています。今みんなと授業を通してともに学べるということが自分にとってのとても楽しみなことの一つです。

1 英語を学ぶ意味とは

さて、英語の授業というものは様々な方法で展開されます。中学校での授業や小学校で始まった外国語活動を通して様々な授業が展開されているはずですが、英語には4技能というのがあり、**Speaking, Writing, Reading, Listening**の4つの力からなっています。それのどの力を重点的に伸ばしていくかによって授業の形も多様化していくのです。

色々あればあるほど、みんなにとってどのようなスタイルの授業がじっくりくるのか非常に今年も悩みました。しかし、最終的には3年後のゴール、つまり、みんなのほとんどが受けるであろう「受験」に対応できる英語力をつけるための授業を展開することに決めました。もちろん言語としての英語を身につけるという意味では、会話を重点的に行ったり、英語を使つてのゲームなどに力を入れたほうがよいのかもしれませんが、しかしながら、高校では自分で英文を読み解く力をつけて欲しいのです。そして何より、英語を武器にして希望の大学や専門学校に合格して欲しいと願っています。

今は想像できないかもしれませんが、英語をどんな方法であれ学ぶことは将来にきっと役立つはずですが、プログラミングを専門にして電機会社で働く友人が「仕事にかかわるマニュアルが全部英語で書かれているんだよね。なんて書いてあるか全くわからなくて困っているんだ。」とっていました。絶対英語なんて使わない、高校を卒業して単位さえ取ってしまえば終わりなんだと思っている人も多いかもしれません。しかしながら、今は意外なところで英語は役に立つし、便利な言語なんです。英語を **First Language** (母語) として話す人口は、約3億7千500万人。**Second Language** (第二言語) として話す人口も、約3億7千500万。**Foreign Language** (外国語) として話す人は、約7億5千万。世界の4人に1人がある程度のレベルの英語を使うということになるそうです。つまり、計算上は、海外に行っても4人に1人は英語で話しかければ、会話が通じるということになります。ちょっと説得力がないかもしれませんが、海外旅行であったり、大学の授業であったり、受験が終わった後でも英語を必ず使う機会があるということです。

以上のような理由から、授業のスタイルは受験を意識した形になりますが、受験に太刀打ちできる「英語力」と人生をゆたかにするための「英語力」の両方を身につけて欲しいと考えています。

2 「英語力」をつけるために今、してほしいこと

自学自習ガイダンスや授業でどのように勉強してほしいかということは話をしてみました。どの話でも言ったと思いますが、1年のうちは、しっかりと「基礎力」を身につけて欲しいと思います。そのために必要不可欠なものが「予習」です。今までに話してきま

したが、1年生のちょうど折り返し地点に来ているので、改めて各科目ごとに詳しく勉強方や取り組み方を話していきたいと思います。

【英語Ⅰ】・・・まずは自分のオリジナルのノートをしっかり作って予習をしよう。

4月の最初の授業でノートの作り方、予習の詳しいやり方について解説をしました。自分なりの予習の仕方やノートの作り方は確立できたでしょうか。1学期の様子を見ていると、ほとんどの人がノートの作り方に慣れ、授業でのポイントもうまくまとめられているようです。

どうしてあのような形でノートをまとめさせられているのか疑問に思っている人もいるかもしれません。しかしながら、予習でみんなに取り組んで欲しいといったことの一つ一つが英語の基礎力をつける取り組みになっているのです。例えば、教科書の本文をノートに写してもらっているのもその例です。本文なんてコピーしてしまえば簡単かもしれません。しかしながら、英語を「書ける」ようになるためには、書いて覚えることが必要不可欠です。また、原始的ではありますが英語を覚えるためには書くことが大きな意味を持つはずだと私は考えています。また、日本語訳をどうしてみんなに考えてきてもらっているかということです。日本語訳を書くということは、英語の構文を理解し、日本語を介して英文をどれくらい解釈できているのかを見る練習なのです。ですから、自分で書いてきた訳が授業で紹介したものと内容的に違うところだけを訂正していけばよいのです。自分で考えてきた訳は消さずに残しておきましょう。そして復習のときにどこを間違えたのか確認するようにするのです。ただ授業中に聞いた訳を写すだけでは力は到底つきませんよ。

【英語ⅠS】・・・まずは自力で長文を読み、問題を解いてみよう！

この授業では受験で必要になる長文読解の力を養っていこうという授業です。もちろん今使っているテキストは受験で出題されるレベルの英文よりは簡単です。しかしながら、長文の読み方や設問を解くポイントは変わりません。そのノウハウを少しずつ定着させ、賢く長文を読み解き、点数を効果的に取れるようになりましょう。

【OCⅠ】・・・参考書「フレイクスルー総合英語」を読む習慣をつけよう！！

文法を学ぶということは、その言語の法則を学ぶことです。ということは数学の公式も使ってみないと覚えられないのと同様に、文法も練習を繰り返さないと覚えられません。定着させるためには練習問題を何度も繰り返し解くことが大切です。また、法則であるので非常に複雑な面があります。授業の50分という限られた時間内では説明し切れないこともあります。そこで役に立つのが参考書です。非常に詳しく簡単などころから発展的な内容を説明してくれていますので、ぜひ読んでから授業に臨むようにしましょう。授業の理解度が格段と上がるはずです。

3 最後に（7月の進研模試の結果を振り返って）

大好きなみんなだからこそ、最後に厳しいことを言いたいと思います。これを読んでいる頃には模試の結果が返されているはずですが、英語に関して言うと、平均点偏差値が45.5でした。同じレベルの都立高校と比較するとやや高めで頑張っているともいえます。しかし、大学入試の敵は全国にいます。このままでは戦えるフィールドにもたてていません。当面はこれを50にあげることを目標にしていきたいと思っています。みんなの頑張りに期待しています。みんなならきっとできるはずです！！